

Q16 個々の課題や困難を把握できても、どのように指導するのか、授業をどう組み立てるのか分かりません。



特別支援学級担任

個々の課題や困難さを把握することはできるものの、それをどのように指導するのか判然としません。

1時間の授業の中をどう組み立てるのか、自信がありません。



通級指導教室担当



特別支援学級担任

指導の具体例がたくさんあると参考にしやすいです。具体的な実践例が知りたいです。

A 指導内容と教材を基に、いくつかの学習活動を組み合わせて、1時間の授業を組み立てます。

自立活動の授業を構想する際には、1~2ヶ月を一つの期間とし、題材(単元)を設定します。そして、流れ図の作業等で導き出した具体的な指導内容の中から、この題材で扱う指導内容を設定します。複数の児童生徒がいる場合は、個々に指導内容を設定します。

【例】

A 児:小集団でルールを守ることや負けた時の対処方法を身につける

B 児:少人数の安心できるグループで、人と関わる自信と意欲を育てながら、協力して活動する

C 児:相手に伝えなければならない事柄を、いつ、どこで、どうしたいかなど、項目を見ながら順番に話す

次に、指導内容を指導するための教材を設定します。教材の設定に当たっては、Q17で解説しています。個別に指導する場合は、個々に教材が設定されますが、同じような指導内容であれば、複数の児童生徒に同一の教材を設定しても構いません。

※複数人いる場合の指導方法については、Q20を参照。

【3人に同一の教材を設定する例】玉入れ、双六、かるたなどのゲーム(A児はゲームのルールを守る、負けた時の対処法、B児はゲームで協力して活動、C児はゲームの中で伝えなければならない事柄を伝える)

【個々に教材を設定する例】(ワークシートやロールプレイで、行動や会話の内容や方法を考えたり、実際に行ったりする)

A 児:学校生活での遊びや体育の競技の場面

B 児:休憩時間や昼休みの場面

C 児:学校生活での困った場面

そして、設定した指導内容と教材を基に、学習活動をいくつか組み合わせて、1時間の授業の展開を考えます。学習活動の設定については、Q18に解説しています。

下記サイトに、実践事例が多数紹介されています。



←大分県教育センター
「特別支援教育 実践事例」

国立特別支援教育総合研究所→
「特別支援教育教材ポータルサイト」

